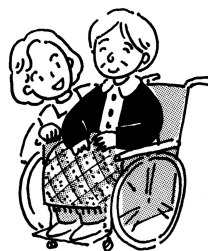


こんにちは
日本共産党です

4月から介護保険料引き下げへ 介護の負担軽減へ前進

4月から介護保険制度の見直しがおこなわれ、介護保険料が改定されました。流山市では、初めて減額となり、高齢者の負担増で医療や介護の不安が広がっている中で、めったにないことと喜ばれています。

**全国平均180円値上げのところ
流山市では2400円（基準額）値下げ**



H12年に介護保険制度が始まってから3回目の制度改定となる第4期介護保険事業計画では、介護労働者の待遇改善のための介護報酬の3%アップなどがおこなわれました。さらに、高齢者人口の増加などで、全国的には介護保険料は若干の引き上げとなっています。一方で、介護度ごとに利用上限額が決められている

など、介護の利用抑制がすすみ、全国では

数千億円単位で、介護保険会計の黒字が問題となっていました。

昨年11月に京都市が、準備基金を全額取り崩して保険料引き下げを決めるなど、全国の自治体で介護保険料引き下げが広がりました。流山市でも日本共産党が求める中で、基準額で2400円の引き下げとなったのです。

介護費用の増加で、介護保険料は改定の度に引き上げられてきました。そんな中で、初めて引き下げられたことは、画期的です。

介護の「利用抑制」で余ったお金で 保険料引き下げよと粘り強く要求

介護保険料の引き下げには、市民の陳情や日本共産党の議会論戦が大きな影響を与えました。

日本共産党は、介護保険料など、介護の負担軽減を選挙公約として掲げ、毎議会、質問するなど粘り強く取り組んできました。

H18年の制度改悪以来、ますます「保険あって介護なし」と制度の根幹が問われていますが、日本共産党は、自治の力を発揮し、市独自の努力をと求めてきました。

昨年9月・12月議会では、「5億円の基金は、保険料の引き下げに使うべき」と追及し、当局も「基金を保険料軽減に使いたい」と答弁していました。

最終的に、基金の8割を取り崩して引き下げまですすんだのは、陳情や日本共産党の主張を受け入れたことになりました。

介護保険料の減免制度や 障害者控除認定も大きく前進しました

介護の負担軽減では、昨年9月議会で保険料の減免制度を実現。さらに、料、介護保険料、医療費など軽減されることになりました。

介護保険料利用者の障害者控除認定も3月末には申請が2300件に。今年の確定申告で、多くのお年寄りが、税金や国保

市民の暮らしを守る日本共産党の役割がさらに求められています。



